

※以下、ピムコジャパンリミテッド提供のレポートをご紹介します。

## 足元の米国ハイールド債券市場動向

- 米国ハイールド債券市場は信用力が高めのBB格が牽引する形で7月の下落幅を取り戻し、堅調に推移
- 調整局面を投資機会と捉えた投資家の資金が流入し、8月第2週以降は資金流入が続く
- デフォルト率は今後も低位で安定する見込みで、同債券への投資を通じたインカムの積み上げが有効に

### 7月の調整局面を乗り越え、米国ハイールド債券の視界は引き続き良好

#### 米国ハイールド債券は7月の下落幅を既に取り戻す

##### ● 足元の回復局面では、より信用力の高いBB格が牽引する形に

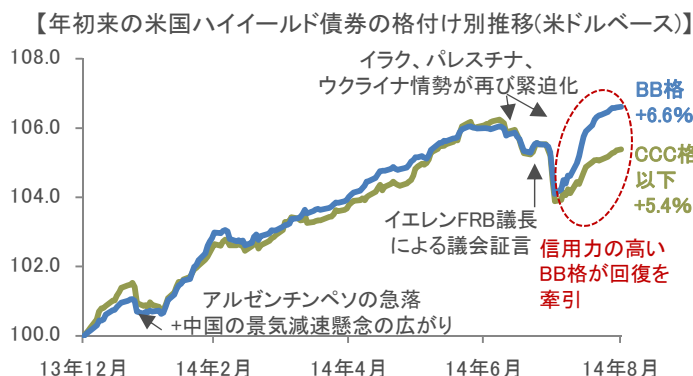
- 地政学リスクの高まりやイエレンFRB(米連邦準備制度理事会)議長の議会証言の内容を受け、米国ハイールド債券(BB-B)\*の7月のリターンは-1.3%に
- 一方、8月のリターンは+1.6%と7月の下落幅を取り戻し、年初来でも+5.9%と堅調に推移。足元はハイールド債券の中でも相対的に信用力の高いBB格が回復を牽引する形が鮮明に

期間:2013年12月末-2014年8月末 2013年12月末を100として指数化

出所: BofAメリルリンチ

\*米国ハイールド債券: BofAメリルリンチ・米国ハイールド・BB-B格指数

右図はBofAメリルリンチ・米国ハイールド指数の格付け別サブインデックス



#### 投資家の資金も再び流入へ転じる

##### ● ファンダメンタルズが良好であれば、調整局面は投資機会に

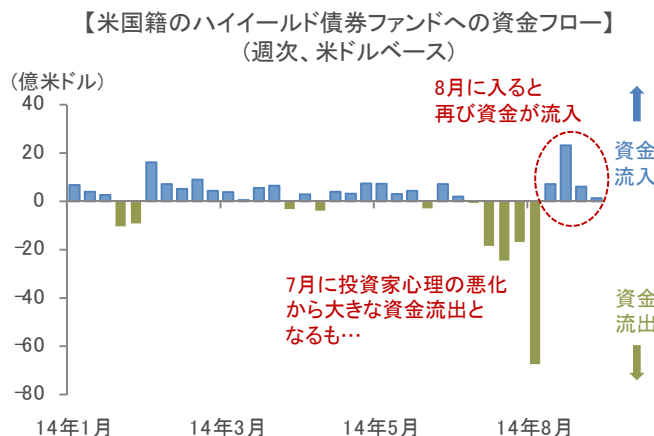
- 投資家心理の悪化を主な背景に、7月にはハイールド債券市場から大きな資金流出が見られるも、8月第2週には資金流入に転じ、その後4週間にわたり資金が流入
- ファンダメンタルズは良好で変わらない中で利回りが上昇\*したため、この調整局面を格好の投資機会と捉えた投資家からの資金が流入する形に

期間:2014年1月2日-2014年9月3日

出所: EPFRグローバル、BofAメリルリンチ

\*2014年6月30日~2014年8月1日に米国ハイールド債券(BofAメリルリンチ・

米国ハイールド・マスターII指数)の最終利回りは5.8%から6.3%まで上昇



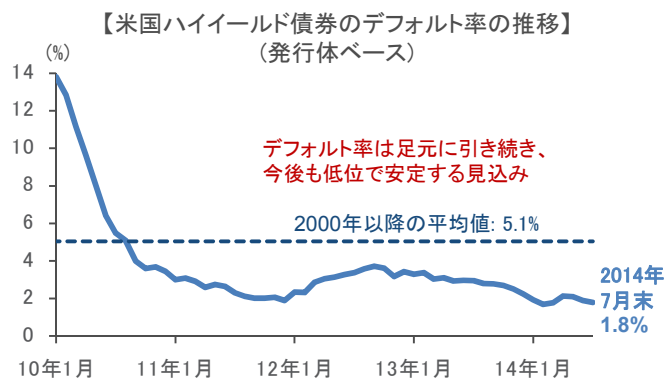
※上記は過去のデータであり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。

## ファンダメンタルズは引き続き良好

### ● 足元のデフォルト率は2010年以降の最低水準を維持

- 内需主導の景気回復を背景に米国ハイイールド企業は業績・財務の両面から改善し、デフォルト率は歴史的な低水準に
- 良好な資金調達環境下で既存債務の借り換えは進んでおり、デフォルト率は今後も低位で安定すると予想される
- デフォルトによる損失が限定的と予想される中、米国ハイイールド債券投資を通じたインカムの積み上げが今後も有効に

期間: 2010年1月末-2014年7月末  
 2000年以降の平均値は1999年12月末-2014年7月末  
 出所: ムーディーズ

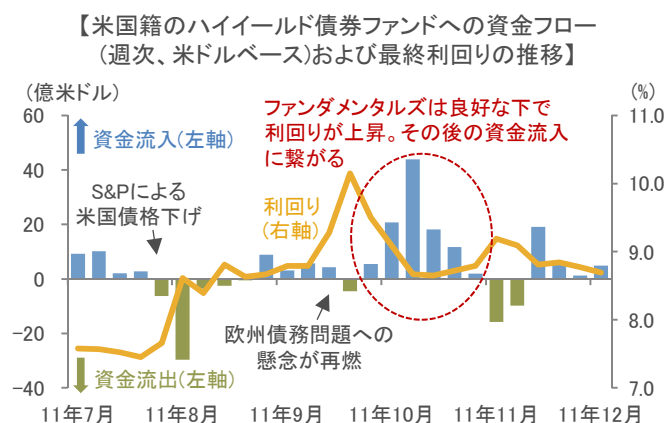


## 【コラム】過去の調整局面(米国価格下げ、欧州債務問題の再燃)後にも見られた資金流入

### ファンダメンタルズが良好であれば資金は回帰

- 調整局面で投資妙味を見出す投資家の資金流入が下支えに
  - 2011年8月以降も、米国債の格下げや欧州債務問題の再燃により、米国ハイイールド債券は軟調に推移し、資金も流出
  - 一方、2011年8月～11月の米国ハイイールド債券のデフォルト率は2%台で推移するなどそのファンダメンタルズは良好
  - かかる状況下での利回り上昇を受け、リスク対比で投資妙味が増したと判断した投資家の資金が流入し同市場の下支えに

期間: 2011年6月30日-2011年12月28日  
 出所: EPFRグローバル、BofAメリルリンチ  
 利回り: BofAメリルリンチ・米国ハイイールド・マスターII 指数の最終利回り



※上記は過去のデータであり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。

**【 ご留意事項 】**

- 当資料はピムコジャパンリミテッドの情報を基に三井住友トラスト・アセットマネジメントが投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。
- ご購入のお申込みの際は最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 投資信託は値動きのある有価証券等(外貨建資産には為替変動リスクを伴います。)に投資しますので基準価額は変動します。したがって、投資元本や利回りが保証されるものではありません。ファンドの運用による損益は全て投資者の皆様へ帰属します。
- 投資信託は預貯金や保険契約とは異なり預金保険機構および保険契約者保護機構等の保護の対象ではありません。また、証券会社以外でご購入いただいた場合は、投資者保護基金の保護の対象ではありません。
- 当資料は信頼できると判断した各種情報等に基づき作成していますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。また、今後予告なく変更される場合があります。
- 当資料中の図表、数値、その他データについては、過去のデータに基づき作成したものであり、将来の成果を示唆あるいは保証するものではありません。
- 当資料で使用している各指数に関する著作権等の知的財産権、その他の一切の権利はそれぞれの指数の開発元もしくは公表元に帰属します。